

授業科目 言語発達学

【担当教員名】 市島民子	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

言語発達の前言語期から言語期への過程、“声からことばへの過程”である
 前言語期では、音声言語の基盤である発声行動および言語音知覚および
 コミュニケーション行動の発達に関して実際の画像を交えて理解する。
 言語期では、“ことばはいかに獲得されるか”というテーマで、初語期から学童期までの言語獲得過程を学ぶ

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

- ・健常児の言語発達は、言語発達障害の基盤であり、言語臨床の評価および指導のために必須である。すべてが基礎知識として必要であるため、確実に学習し理解する。
- ・視聴覚機器を使用することで、実際の状態を確認しながら、各々が具体的で、体験的な学習となるよう努める。
- ・基礎的な知識として、専門用語を理解し、使用できること。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	言語発達とその関連領域		講義
2	前言語期のコミュニケーション		講義・視聴覚機器使用
	①反応性		
	②相互志向性前期		
3	③相互志向性後期		
	④意図性		
4	発声行動の発達		講義・視聴覚機器使用
	前言語期		
5	言語期		
	初語期		
6	幼児期前期		講義
7	幼児期後期		講義

参考書 よくわかる言語発達 やわらかアカデミズムシリーズ 岩立志津夫・小椋たみこ編 ミネルヴァ書房2005
 入門コース ことばの発達と障害 1：ことばの発達入門 桑野悦子編 大修館書店 2001年

その他の資料 講義では全てプリント使用

【評価方法】

小レポート
 試験またはレポート
 出席

【履修上の留意点】

講義回数が7回であるので、出席は履修最低条件である。